



ふくしとコロナ

welfare & covid-19

Writer / きずな大使 鳥居一頼

希望の花を咲かせよう
コロナ禍で 暮らしの不安も傷ついた心も
癒される日はきっと来る
しんどい人に寄り添うことが叶わず悩む日にも
思い通りに動けぬことに地団駄踏む日にも
希望の芽が枯れることは決してない
闇を引き裂く光が希望の芽を照らす
困難をすき込んだ心の大地に根を張り
柔らかな陽ざしを浴びて蕾をつける
もう大丈夫と語り合える日は遠くない
だから希望の花を咲かせるまで 心優しく生きよう

コロナ禍で日頃感じる想いや、
頑張っている地域の仲間達へのメ
ッセージを募集中！市民であれば
どなたでも【本名かペンネーム、
お住まいの町名を添えて200文字
以内で】裏面問い合わせ先までメ
ールか郵送でお寄せ下さい。
※本誌以外の本会発行物に掲載さ
せていただく場合があります。

Next / Information

施設に元気を届けたい！ リモート演奏会を開催しました



12月21日、しんた21にてボランティア団体「コンパニア・デ・マンドリーナ」によるリモート演奏会が行われました。

コンパニア・デ・マンドリーナは、これまで16年にわたり市内外の福祉施設への訪問演奏を中心に活動してきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により演奏会実施の見通しが立たず、「どうにか施設で生活する利用者さんに楽しい時間を届けることはできないか」とのメンバーの思いから、趣旨に賛同したパソコンボランティアプラザ室蘭のメンバーと社協も加わり、インターネット

上での会議に用いられるサービス「Zoom」を使い市内の介護老人保健施設にリアルタイムで演奏の様子を届けるリモート演奏会が実現しました。

利用者の皆さんは曲に合わせて手拍子をしたり時折口ずさんだりとしてリモートでの演奏会を楽しんだ様子で、演奏したメンバーからは「このような取り組みは初めてで少し戸惑う部分もあったが、喜んでもらえたようで良かった。周りの協力を得ながらまたこのような機会をつくれるなら、みんなで楽しんで演奏したい」との声が聞かれました。

活動への思いと工夫、他団体との協力などによって、新しい活動の形が生まれる可能性を改めて感じられた時間となりました。



▲施設側の様子が映るモニターと向かい合う形で演奏

他団体情報

『新型コロナウイルスとボランティア・市民活動～無理なく、活動続けるために～』（東京ボランティア・市民活動センター）より

コロナ禍での活動継続や再開の判断に悩む場面も多いのではないのでしょうか。客観的な判断のひとつの指標として、東京ボランティア・市民活動センターが提示している「3つの軸」を紹介します。

判断の際に考えたい3つの軸

感染状況（感染リスク）
感染者が多いか少ないか



活動の趣旨（緊急性）
緊急性が高い活動か低い活動か



活動方法（密集具合）
3密の恐れが高いか低いか

活動によって判断の分かれることもありますが、活動を自粛せざるを得ない今、コロナ禍だからこそ、共に活動する仲間と話してみたり、自分自身を振り返りやりがいや生きがいを今一度確かめてみてはいかがでしょうか。

掲載内容の詳細
はこちらから▶



※登別社協では掲載情報の印刷や、随時個別でインターネット、LINE等の使い方をレクチャーすることも可能ですので、お気軽にご相談ください。

Kizuna &

地域福祉活動のお悩みは社協まで



社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
〒059-0016 登別市片倉町6丁目9-1
総合福祉センターしんた21内
TEL / 0143-88-0860
web / http://kizuna-shakyo.jp/
mail / info@kizuna-shakyo.jp